

S.F.A.通信 第18号

(和歌山県漁業士連絡協議会報)

平成24年9月

発行：和歌山県漁業士連絡協議会

S.F.A. (=Senior Fishery Adviser、漁業士)

◆漁業士

将来の中核的漁業者として期待される漁業者や、優れた漁業経営を行い指導的役割を果たしている漁業者をそれぞれ「青年漁業士」、「指導漁業士」として和歌山県知事が認定しています。

現在は117名の漁業士が地域漁業の担い手として活躍しています。

和歌山県漁業士連絡協議会

会員相互の連絡調整や交流資質向上を目的に、平成元年に発足しました。

年1回の総会その他、他府県との交流会の開催、魚食普及活動、部会での活動などを通じて、お互いの情報交換や親睦を図っています。

～通常総会開催～

平成24年6月30日(土)、田辺市のガーデンホテルハナヨにおいて、平成24年度通常総会を開催しました。当日はあいにくの空模様でしたが、28名の漁業士が出席されました。総会では、まず平成23年度の事業報告が行われ、続いて平成24年度の事業計画について説明がありました。今年度の取り組みとして、小学校などでの魚食普及活動や4部会の先進地視察などが承認されました。また、総会終了後の情報交換会へも多数の漁業士が参加し、日頃は接点の少ない地域の漁業士と近況報告や活発な意見交換を行いました。



▲総会の様子

～漁民の森の下草刈り～

平成24年6月2日（土）、日高川流域の日高川町船津において「漁民の森」の保育作業（下草刈り）を行いました。当日は日高地区を中心に有田、西牟婁地区の会員と漁業関係者など39名が参加し、一面に生い茂った雑草を丁寧に刈り取りました。

平成20年3月に植樹したクヌギとウバメガシは、背丈以上の大きさに成長しており、今年度をもって保育作業を終了することになりました。

参加された漁業士の皆様、本当にご苦労さまでした。



▲作業前の挨拶



▲作業風景



▲成長した苗木



▲作業終了後の様子

～兵庫・徳島・和歌山3県漁業士交流会～

平成24年8月28日（火）～29日（水）の2日間、兵庫県淡路市において兵庫・徳島・和歌山の3県漁業士交流会が開催され、塩谷 昇会長と山本広己副会長が出席しました。

1日目は各県から漁業士の活動について報告を行いました。近年は他県でも魚食普及活動を活発に行っており、徳島県ではアオリイカー夜干し、兵庫県ではイカナゴ新子のくぎ煮作りなど地域に合った料理教室を開催していることが紹介されました。

2日目は淡路市立尾崎小学校を訪問し、全校生徒40人を対象に魚食普及活動を行いました。各県の漁業について説明した後、地元で獲れた活タコを使った干しダコ作りを行いました。生徒の中に親が漁業者の子供は居らず、皆苦労しながら作業を行っていました。作業終了後は、皆でタコ飯を頂き、タコに関するクイズをして盛り上がりました。



▲意見交換会



▲和歌山県のまき漁業の紹介



▲干ダコ作り体験



▲干ダコ作り体験



▲タコ飯の昼食



▲タコに関するクイズ

～瀬戸内海ブロック漁業士研修会～

平成24年9月4日(火)～5日(水)の2日間、香川県高松市において瀬戸内海ブロック漁業士研修会が開催され、塩谷 昇会長と松村よう子副会長が出席しました。

1日目は、各県から漁業士の活動状況を報告した後、イオンリテール(株)の山知克旨氏より、「流通業から見た水産業の現状と消費者ニーズの変化」について講演がありました。最近の風潮として、消費者の「作らない化(魚を調理しない)」と「抵抗ない化(総菜を買うことに抵抗がなくなった)」が進んでいることが挙げられ、魚への関心を引くた

めの取組や漁業者と小売業者が接点を持つことの重要性が述べられました。

2日目は、早朝に高松市中央卸売市場を訪問し、市場取引の様子を見学しました。当日は休漁日の漁業者が多く、取扱量は少なめでしたが、サワラ、マナガツオ、タチウオなどが並んでおり、全国的に珍しい「セリ下げ」で入札が行われていました。会議では、香川大学農学部が多田邦尚教授より「瀬戸内海の水質環境」について講演がありました。瀬戸内法の制定後、瀬戸内海の水質は良くなり、漁業が衰退しましたが、再び豊かな海を取り戻すためには、海の栄養塩濃度を増やすだけではなく、干潟や藻場などの環境整備も併せて行うことの必要性が説明されました。



▲意見交換会



▲山知氏の講演



▲中央卸売市場の見学



▲多田教授の講演

有田箕島漁協における鮮魚直売の試みについて

有田振興局 南普及指導員

平成24年9月1日に有田箕島漁協において鮮魚朝市の第1回目が開催され、約1,000人の来客で賑わいました。これは漁業者の所得向上や漁業の6次産業化を目的とした「産地水産業強化支援事業」を活用したもので、同事業で結成された有田市産地協議会（構成員：有田箕島漁協、有田市、和歌山県）が主催となっています。

当日は小型底びき網や定置網でその日の朝に漁獲されたタチウオ、タイ、ハモ、ウボテ、アジ、サバなどのほか、小エビ、アジアカエビ、ヒイカやサザエといった様々な魚介類が店頭に並びました。

販売開始は午前9時からでしたが、開始30分前にはすでに人だかりができており、開始の合図とともに我先にと魚を買い求めるお客さんの声が飛び交いました。

なお、朝市は今後も定期的に継続してゆく予定であり、最終的には漁業者が自主的に朝市を活用していけるようになることが目標です。



お問い合わせ先

県庁水産振興課	073-441-3000	田中主査
海草振興局企画産業課	073-441-3372	井川普及指導員
有田振興局企画産業課	0737-64-1286	南普及指導員
日高振興局企画産業課	0738-24-2946	山田普及指導員
西牟婁振興局企画産業課	0739-26-7910	伊勢田普及指導員
東牟婁振興局企画産業課	0735-21-9604	横濱普及指導員